

ふれあい

平成24年2月 第308号
大代地区コミュニティ推進協議会
(広 報 部)
事務局：大代地区公民館 (生涯学習課分室)
TEL 022-368-1141 (内線510)

掲 載 目 次

- 「新年を祝う会」を振り返って 1
- 新年を祝う会を担当して 1
- 震災と復興 2
- 憧れの地に住まいして 3
- 地域に浮かぶ船 3
- 新仙台火力発電所からのお知らせ . . . 4
- 大代の歩み (四十三) 4
- サークルゆりの紹介 4

大代地区の世帯数 (平成23年12月31日現在) : 東区341、中区304、西区276、北区116、南区571、合計1,608

「新年を祝う会」を振り返って

大代地区コミュニティ推進協議会

会長 熱海 五郎

一月十四日(土)コミュニティ推進協議会主催による恒例の「新年を祝う会」を大代地区の方々、県議会議員、市議会議員、各種団体のご出席を頂き盛大に行われ、無事終了致しました。今回は、大代地区公民館が工事のため使用できませんでしたので、小野屋ホテルでの開催となりました。公民館以外での開催は初めてでしたが、コミュニティ推進部が中心となって企画し、総勢八十八名のご出席を頂きました。心から感謝申し上げます。会の進行にあたっては、県議、市議の挨拶を頂いた後、来賓紹介、乾杯、余興、一本締めで締めくくりました。余興では、仙台合唱団によるふれあい合唱と大代南区の斉藤さんによる手品が披露され、大変盛り上がりました。ふれあい合唱では、合唱団と会場の皆さんが一緒に歌って歌い、大きな声で「ドツコイショ」の囃子で歌った歌がとても印象的でした。今回、コミュニティ推進協議会に対する様々なご意見や励ましの言葉を頂きましたが、これらについては、参考にしながら活動していきたいと思っております。

最後に、現在コミュニティ推進協議会では、役員を中心に「こみプロ」を立ち上げ地域の自治力アップや公民館の民営化に向けての研修、学習会を行っております。引き続き地区の皆様のご意見を頂きながら取り組んで参りますのでご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

新年を祝う会を担当して

大代地区コミュニティ推進協議会

コミュニティ推進部長 藤原 昭雄

昨年三月十一日の大震災によって大代地区も甚大な被害を受けたことから、例年公民館で開催していた新年を祝う会を今年は、小野屋ホテルにおいて開催しました。震災後、コミュニティの行事もなかなか実施できない状況にありましたが、地区住民の気持ちを高揚させるためにも「新年を祝う会」は、やろう、やるべきだとの声を受け、コミュニティ推進協議会が中心となって進めてまいりました。ただ実際には、被災した方々も協力しますとの声が上がっており、多くの方々の協力が得られたことよって開催することができました。会場となった小野屋ホテルも震災で被害を受け、当時は、地区住民の避難場所として使用させていただきました。本当にわれわれのために多大な協力をしていただき心から感謝しております。また今回の新年を祝う会においても場所、料理、帰りのバス等地区住民のためにご配慮いただき本当にありがとうございます。余興では、南区の斉藤英記さんによる手品や仙台合唱団による会場一杯に展開して皆で歌った大合唱、曲目も誰もが一緒に歌える歌を準備していただき、大いに盛り上がる事ができ、初期の目的は達成できたのではないかと思います。

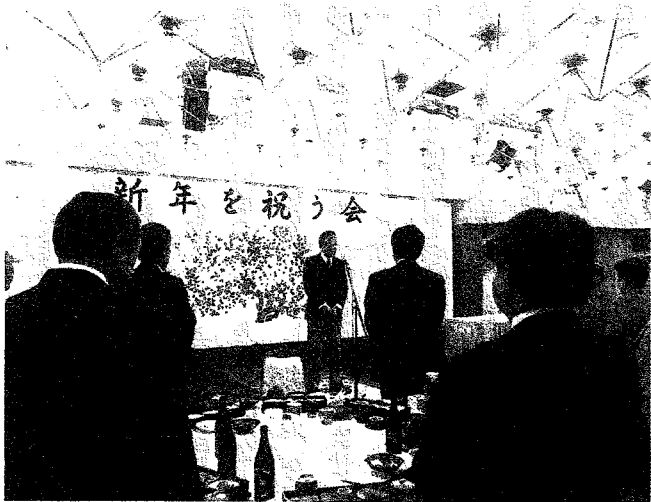
ご協力いただきました皆様方に御礼と感謝を申し上げます。最後になりましたが、皆様方のご多幸を祈念し御礼の言葉と致します。



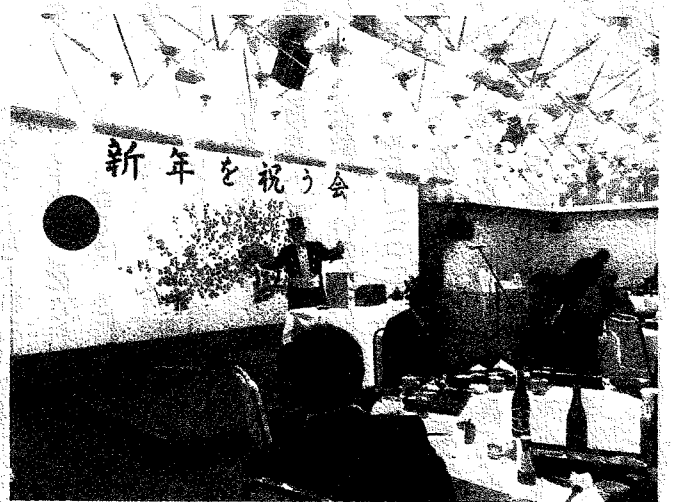
仙台合唱団と出席者全員による大合唱が行われました。



黙祷を行った後、熱海会長の主催者代表挨拶がありました。



橋本南区長から、震災で被害を受けられた方々に配慮し、一本締めで終了しました。



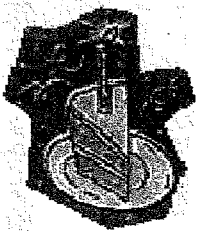
南区ではおなじみの斉藤さんによる手品の芸に魅了し、会場から拍手が湧きました。

震災と復興

大代南区 内ヶ崎 勝夫

宮城に甚大な被害をもたらした東日本大震災から十ヶ月が経とうとしておりますが、毎日のように繰り返される強弱の余震で、不安と恐怖の日々を送っています。また愛する家族を亡くし、思い出多い我が家を失い、仕事をなくして絶望感に苛まれている方々の心中をお察し心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。今なお仮設住宅には多くの方々が避難されておりますし、在宅で不安や不便に耐えている方も数多くおります。一刻も早く平穏な生活を取り戻し、安心して暮らせるよう、各関係機関において、今回の津波被害の検証を踏まえた復興計画の策定を進めていただきたいと思います。皆さんの必死の努力と、また友好都市を始めとする全国からの応援して下さった力が実り、少しずつ復旧の兆しが見えてきたとはいえ、多くの方が家族を、家を、職を失い、また癒されることのない深い苦しみの中にあるのも現実です。地域の力、地域の絆を大切に、英知を結集し、共に復興に立ち向かしましょう。

終わりに、この災害に献身的応援を下さった関係機関、ボランティアの皆さんに心から感謝申し上げます。



憧れの地に住まいして

大代南区 齋藤 富子

幼い頃の私にとって多賀城は都会でした。床屋さんは、八幡が大代の戸枝さん又は蒲生の街へ行っていました。バス停もありませんでした。仙台市民とは名ばかりのところで育ち、遊び場は原っぱ、海岸、松林、貞山堀などで吉幾三（歌手）の演歌並みの自然がいつぱいのところですよ。小学校の低学年の頃はズル休みの連続で雨など降ろうものなら五歳上の姉は、「遅刻するからもう家に帰りな」と親切？でした。これ幸いと友達と山学校という具合口でした。でも、親にしかられた記憶がありません。昔は生活全般が手のかかる事ばかりで現在のように「スイッチポン・チン」ではなかったのです。親は常に多忙で子供にも余り目が届かなかつたのか、もしかすると甘やかされていたせいもあったかもしれません。中学、高校、勤めと多賀城駅を利用するようになって、雨の日、風の日、徒歩で約一時間近くかかる距離をエイコラ。自転車の時もあったけれど、何故か行きも帰りも向かい風になり、砂利道だったので結構大変でした。お陰で脚だけは丈夫になったかも知れませんが。当時若かったので駅から工場地帯に働きに来る人達の目がとても嫌でした。スカートは捲れるし、本当に情けなかった。心の底からどうしてこんな不便な所に住んだのかと置かれた環境が恨めしかった時もありました。そんな訳で私は（将来は絶対多賀城に住みたい。）と憧れておりました。折良く見合い相手だった夫が大代の高台に土地を購入して

いると聞き、母一人になつていたし、兄弟たちも勧めるので、結婚することになり今に至つて四十五年になります。結婚の動機が如何にも不純ですが、相手もそれ相応実直な人のようでしたので結婚を決めました。自分を顧みないで高望みは出来ません。実姉の「あんだ断つてばかりいると今にピタクソ、つかむよ。」との適切なアドバイスも効きました。前置きが長くなりましたが、ここ大代は本当に住みよい所でした。残念ながら昨年の大震災では多くの方々が被災罹災されました。まだまだ大代も元通りになつておりません。我が家の被害は高台にあるので水の被害は免れました。皆さんが一日も早く元の生活に戻れますよう願っています。

大代は海も近く、貞山運河の流れの景色も良く、緩衝緑地はまだ活用できませんが、二階からは泉ヶ岳が眺望でき、お天気の良い日は蔵王連峰さえ望めます。また、コミュニティの活動や行事も多く、その気になれば参加できます。夫の職業上、子育ての頃は寂しい思いや多少の苦勞はありましたが、今は夫婦二人、口喧嘩しながらも何とか暮らしています。それに私にとって最大の幸福は良き隣人、知人、そして友人に恵まれたことです。明日は我が身、日常で思いがけないことは起きます。多少の悩みや心配ごともあります。そんな時にも話を聞いてくれる方がいるというのは本当に心強いです。あと何年生きられるかという年齢になりましたが、もう少しここ大代でお世話になります。本音を言えば大代に仙石線の支線が延びてくれたらもつと良かったなあ。

地域に浮かぶ船

多賀城市立多賀城東小学校

教頭 遠藤 範行

一月十日、楽しかった冬休みの思い出と新年への希望を胸に、四九四名の児童が元気に登校してきました。冬休み中、大きな事故もなく、全員が元気に始業式を迎えられたことを何より嬉しく思います。これも、偏に地域の皆様の温かい声かけと見守りのお陰と感謝しております。

さて、今月で、あの震災より十ヶ月が経過しました。昨年は文字通り、震災からの復旧・復興の日々でした。本校でも、体育館の外壁パネルが落下して使用不能になるなど、施設設備に多くの損傷があり、教育活動の変更を余儀なくされることもたくさんありました。しかし、地域の皆様の温かい励ましで、新たなスタートをきることができました。

六月の運動会、十月の学芸会では、たくさんの方にご来校いただき、児童の真剣な演技にたくさんの方の賞賛の言葉をいただいたことは、児童の大きな自信となりました。

三月十一日、学校から帰る途中、地震にあつた様子を、お母さんの働いている所まで送ってくれたおじさんに、ありがとつと言いたいです。そして、東小の友達みんなとまた会えたことに、ありがとつと言いたいです。

これは一学期の児童発表の一文ですが、震災を乗り越えた子供達は、自分を支えてくれていた皆さんの「人・もの・こと」に気付くことができたと思います。

「学校は、地域という海原に浮かぶ船なり」という有名な言葉がありますが、学校を船になぞらえるなら、地域はそれを浮かべる海であり港です。順風満帆な航海ができるためには、学校・家庭・地域の連携が何より大切であると考えます。

地域の皆様にとつて「誇れる学校」を目指し、今年も職員一丸となつて努力してまいりますので、変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

新仙台火力発電所からのお知らせ

東北電力㈱新仙台火力発電所

当社は、新仙台火力発電所第3号系列を新たに建設する工事を今月（一月）から開始します（工事概要などについては、先月お知らせしたとおりです）。工事はまず、発電の燃料となるLNG（液化天然ガス）を貯蔵するLNGタンクの基礎工事に着手しますが、二月中旬から6月頃にかけて、タンクの基礎となる鋼管杭の打ち込み工事を実施します。

工事にあたっては、夜間の打ち込み作業は行いません。また作業中は、騒音・振動に注意致します。鋼管杭は、県道塩釜七ヶ浜多賀城線を交通量の少ない深夜の時間帯を選んで慎重に搬送するなど、環境保全と安全確保を最優先に取り組んでまいります。工事へのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

お問い合わせ先：東北電力㈱新仙台火力発電所

【地域担当】阿部新一

電話 022-3366-1331（代表）

大代の歩み（四十二）

大代南区 渡邊 巖

戦後の昭和二三（一九四七）年、教育基本法と学制改革によつて多賀城国民学校初等科は多賀城小学校（元の名称）に戻り、高等科は多賀城中学校（三年制）となった。

他方、村民の相互扶助と若者教育を兼ねた組織として、多賀城地区には江戸時代から契約溝などがあったがそれを更に発展させたものとして文政一〇（一八二七）年に制定された大代村若者衆中掟定書があり、村民の自治活動と共助を目的とした伝統的な規範である。この伝統は維新後も続いたが、明治も後半になり漸く社会教育的意識が高まつて台頭したのが青年団である。

宮城郡には従来から各町村に青年の団体があり、冬の農閑期を利用して教師を招き文武修練を行う習慣があつた。

青年団は団員自身の教育を目標に社会人としての育成を目的とした。主たる事業は学術補修・体育奨励である。その中にある大正二（一九一三）年に制定された普通教育奨励会規定により大代青年団は成績優良により表彰の栄に浴したのである。同時に婦人会も誕生して社会教育の中核団体となったが、此の活動も青年団と同様に戦争勃発以後の社会情勢の著しい変転により変化を余儀なくされた。本格的な社会教育体制が整い始めたのは、戦後各地区に公民館が設立されて以後のことである。

次は当時の村財政・各種産業に視点を変えよう。

明治二九（一八九六）年当時、多賀城村役場は村長以下一〇名の常勤職員と各区長一五名の合計二十五名で構成され村政を運営していたが、これは町村制施行（明治一七（一九八四）年以前（五〇名）の半分である。なお此の年の村長の給料（月額）は五円であり、やはりこれも町村制施行前（二〇円）の半分であつた。理由は次号へ。

「レクダンス」サークルゆりの紹介

サークルゆり会長 伊藤ケイ子

レクレーションダンスとは、フォークダンスのステップの仲間です。指導者の簡単な説明で、流行の音楽や懐かしい曲を振り付けし、踊って楽しめるダンスです。私たちは、これまで大代地区公民館を利用してりましたが、三月十一日の大震災で公民館が使用できなくなり、現在は生協大代店の二階第二集會室で活動しております。（毎月第二、第四木曜日十三時半〜十五時半）来店の際、見学、体験してみませんか。只今会員募集中 “初心者大歓迎”
連絡先：宮本 022（364）0460

お知らせ

○ 公民館を利用する「平成二十四年度社会教育関係団体の登録」について、申請受付を二月一日（水）から行います。

お問い合わせ：生涯学習課分室（大代地区公民館）

電話 022-3368-1141（代表） 内線510